

2009年9月7日

WaQuAC-Net 会員
笹山 弘

MWA 講演報告

1 経緯

NWTTI(タイ国水道技術訓練センター)プロジェクト終了10周年を記念してMWAで行事を開催するという計画があり、訪タイを予定していた。残念ながら10周年行事は延期になってしまったが、よい機会なので久しぶりにMWAを訪問することにしたところ、元C/PのMs.NisapasからMWA水質課での講演を依頼された。MWAの水質課では毎月KM(Knowledge Management)カフェという会合を持ち、知識等の共有を図っているようだ。この10年間で新たな水質スタッフが相当増えていることもあり、若い人たちと話し合うよい機会なので、引き受けることにした。なお、KMカフェはこれが4回目、外国人講師で行うのは初めてとのこと。

2 実施概要

日時:2009年8月31日 14:30 - 16:00

会場:MWA水質課会議室

参加者:水質課長以下水質系職員34名

言語:英語(一部タイ語)

3 講演:WaQuAC-Netの紹介

司会はMs.Nisapas、必要に応じてタイ語で補足する。

(1)WaQuAC-Net活動概要

名称と日本語「ワクワク」の説明、WEBページと会報による情報交換及びQ&A。

(2)開始時期と創設メンバーについて

事務局の2名と元NWTTI専門家の3名を紹介。

(3)活動を立ち上げた理由

JICAプロジェクトのフォローアップを個人ベースから、もっと広範囲にしていく。

(4)メンバー紹介

2009年8月21日現在、日本36名、タイ6名、カンボジア9名、ベトナム4名。

(5)活動詳細

将来へ向けての課題:質問に対する迅速な回答。セミナーの開催。専門家派遣。日本での研修実施。

メンバー水道事業体の紹介:ブノンペン水道公社、ラオス水道、フエ省水道公社、タイ首都圏水道公社

Q&A事例:線虫問題。ヒ素除去方法。パック使用の利点。

(6)WaQuAC-Netへの勧誘

4 質問

WaQuAC-Netに限定せず、水質に関するあらゆる質問を受けた。

ほとんどが英語での質問であった。

・パックとバンドで注入管理に気をつけるパラメーターはそれぞれなにか。

- 特にバンドではpH、アルカリ度。パックではpHを制御することで凝集効率をあげることができる。日本では水温も重要なパラメーターである。

・トリハロメタン分析をGC-ECDで行っているが、検量線が直線にならない、何が問題か。

- ECD のエージングを試してみることに。
- ・浄水からロタウイルスが検出されたが、除去方法は？。
 - 確答できないので、後日調べて答えます。
- ・横浜では給水栓の検査はどのくらいの箇所・頻度で行っているか。
 - 現在ではかなり減らして 12 箇所、月 1 回である。
- ・原水の導水にトンネルを使っているか。その利点・欠点は？。
 - 横浜では一部に使っている。トンネルは管路より工事費用が安い外部からの水質汚染の可能性もあり、長い目で見れば管のほうが管理しやすい。
- ・二酸化塩素消毒の経験はあるか。その利点・欠点は？
 - 実験を行ったことがある。消毒副生成物が少ない等の利点はあるが、貯留できないこと、残留しないこと等から液体塩素、次亜塩素酸ナトリウムのほうが管理は容易である。

5 感想

若いスタッフが臆せずどんどん質問をしてくれたことがとてもうれしかった。内容も多岐に渡り、必ずしもすべての質問に満足のいく回答をすることはできなただけに、今後 WaQuAC-Net メンバーの知識・経験を活用する必要性をますます感じた。

それぞれの地域により、課題や、求められる情報は当然異なる。むしろインドシナ半島共通の課題については、日本以外のメンバーからも参考になる知識・経験が WaQuAC-Net 上で発信されることが望まれる。今回の若手スタッフの熱意から、その日が近いことを確信した。

6 写真



サムセン浄水場長 Ms.Siviali から演者を紹介。「ターヌアット:ひげおじさん」との紹介に笑い声。



前のほうにチーフたち。

講演中の笹山。



司会の Ms.Nisapas,



参加者。若い人が増えた。



軽食つき。飲み物はパック入り水道水。



質問する若手スタッフ。



終了後も実際のデータを示しながらの質問。熱心であった。